

移転計画概要

○ 移転概要

中央区役所の複合庁舎化により空室となる中央保健センター及び中央区役所分庁舎に、中央市税事務所を移転させることに伴い、保全改修工事を実施する。

○ 移転場所

札幌市中央区南3条西11丁目
(旧中央保健センター・中央区役所分庁舎)

○ 敷地面積

約1,900㎡

○ 延べ面積 (移転先)

約4,500㎡

○ 用途

1・2・5・6階：執務室

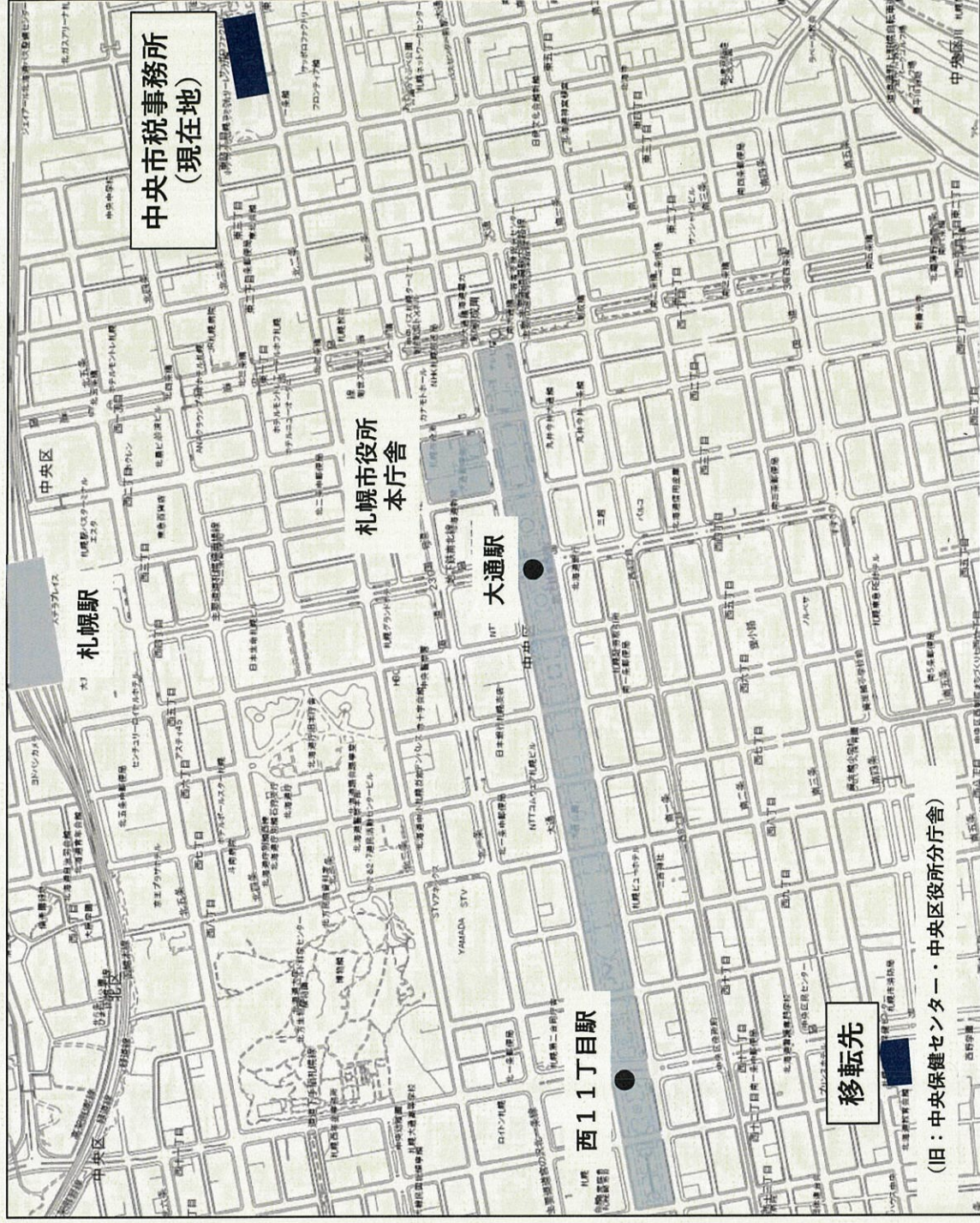
○ 工事期間 (予定)

2023年度から2024年度

○ 供用開始 (予定)

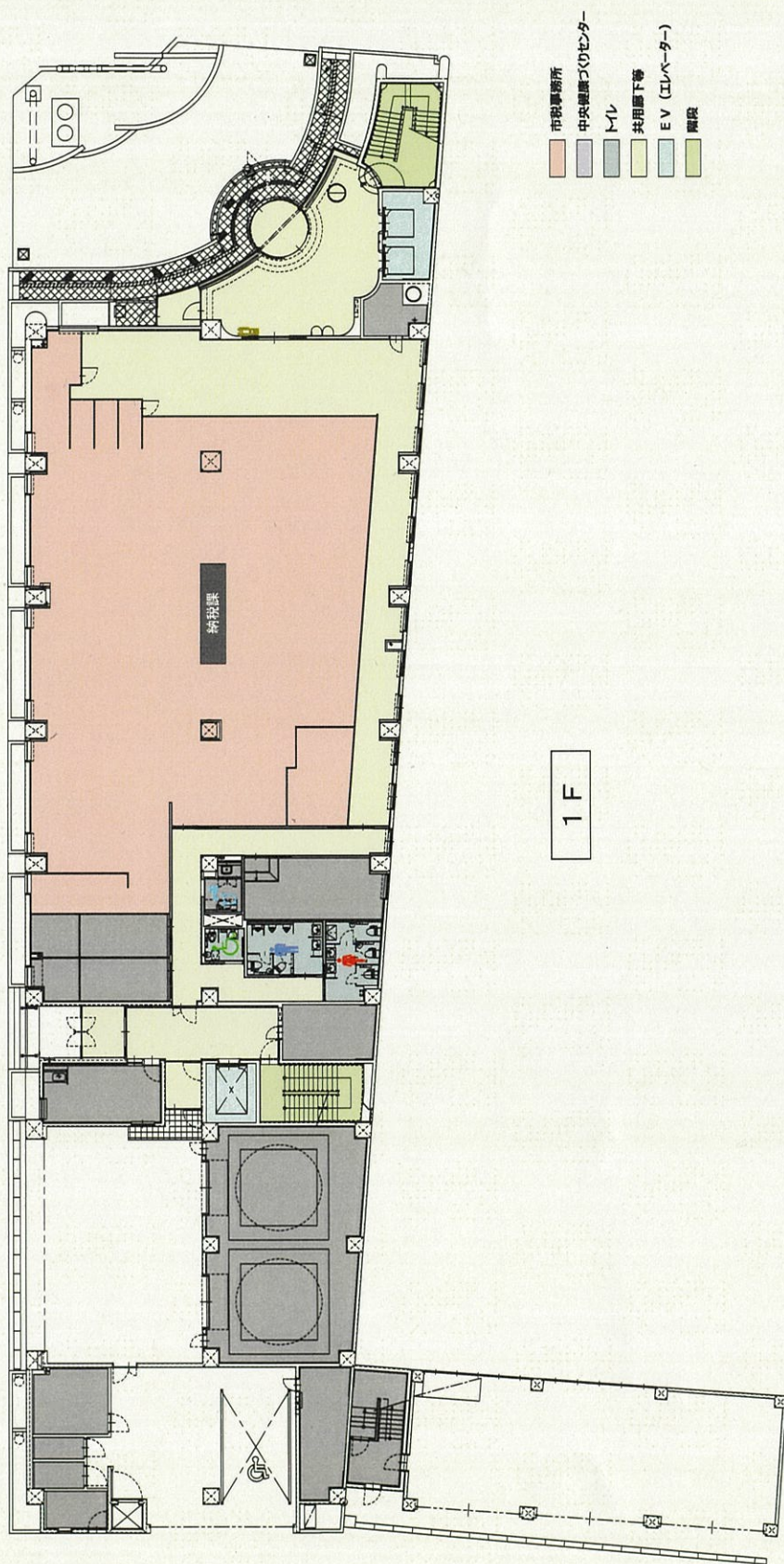
2024年度下期

計画敷地図

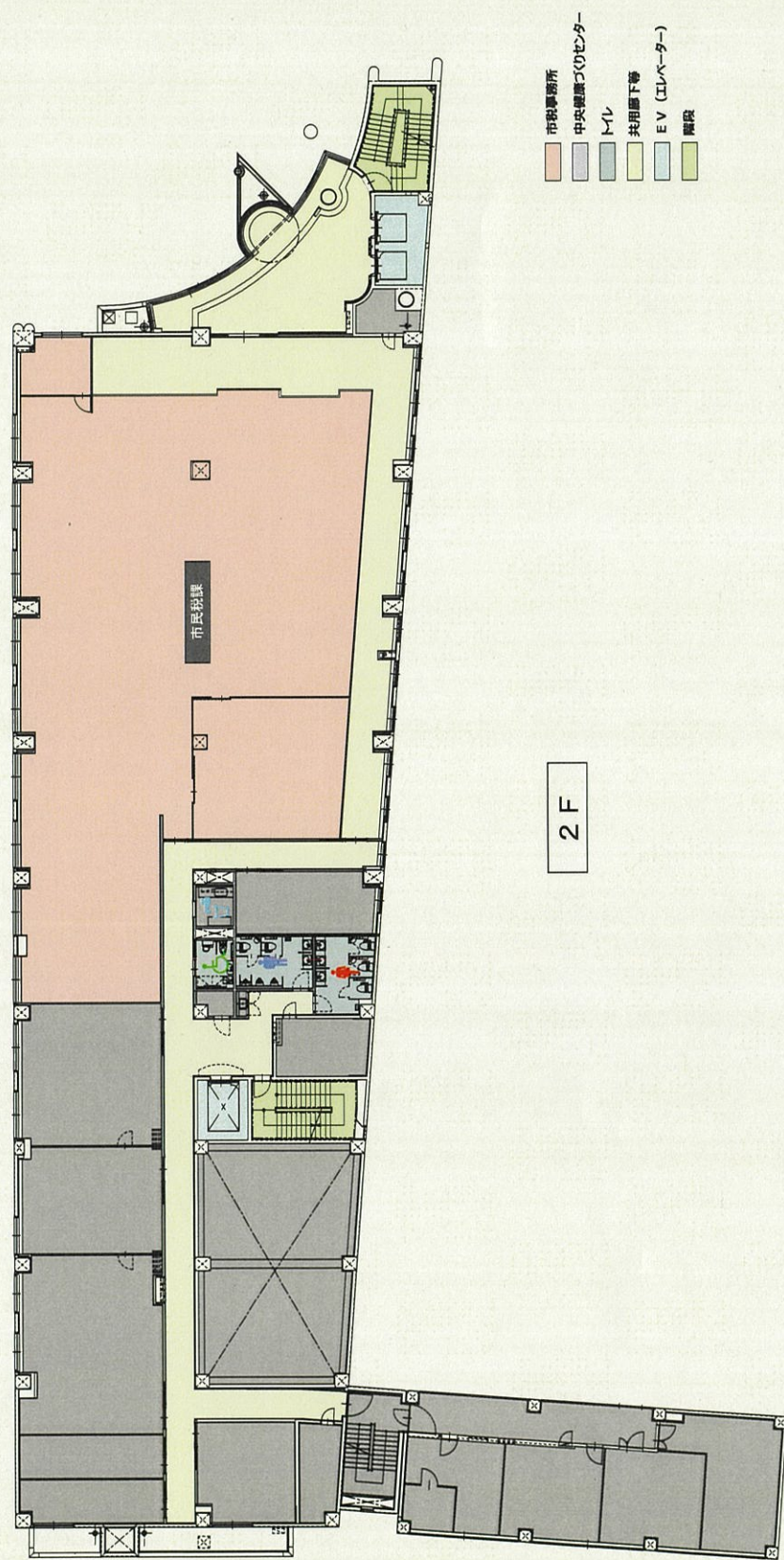


(旧：中央保健センター・中央区役所分庁舎)

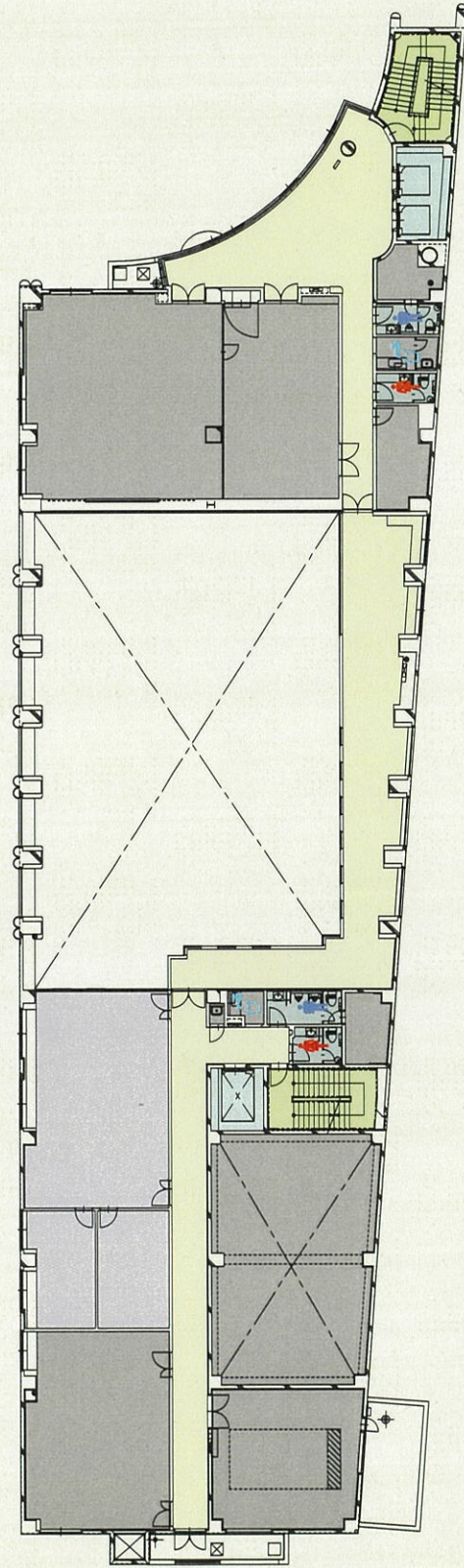
※ 上記記載内容は現時点でのものであり、今後変更になる可能性があります。



計画平面図



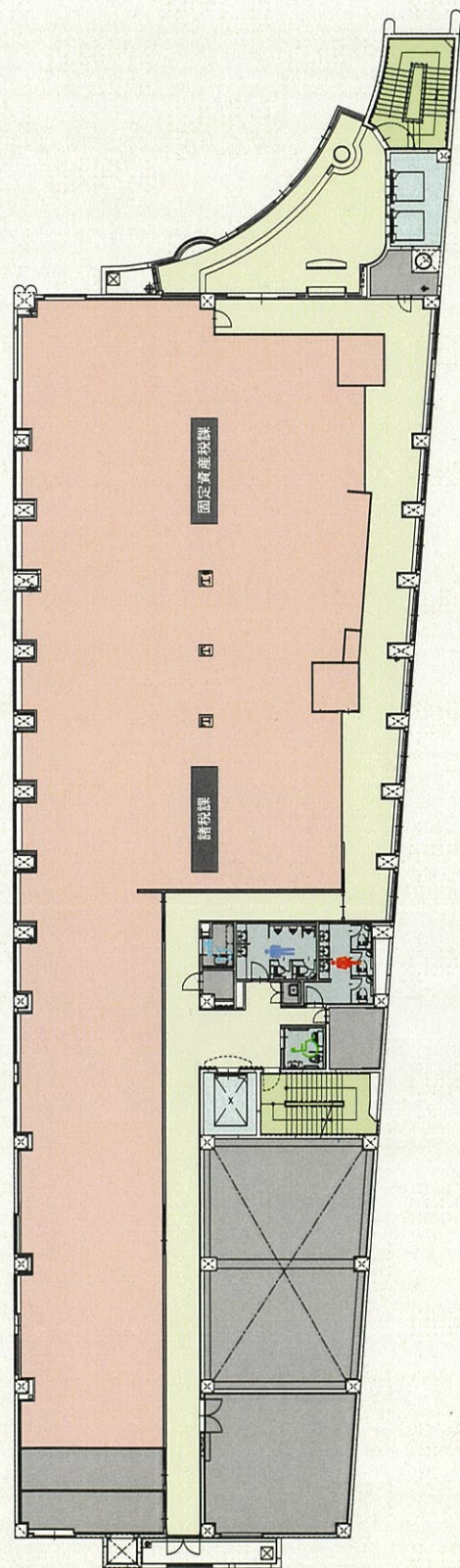
計画平面図



5 F

- 市役事務所
- 中央健康づくりセンター
- トイレ
- 共用廊下等
- EV (エレベーター)
- 階段

計画平面図



- 市税事務所
- 中央連絡づくりセンター
- トイレ
- 共用廊下等
- EV (エレベーター)
- 階段

6 F

計画平面図



機械式立体駐車場
(既存設備)

駐車場の整備方針

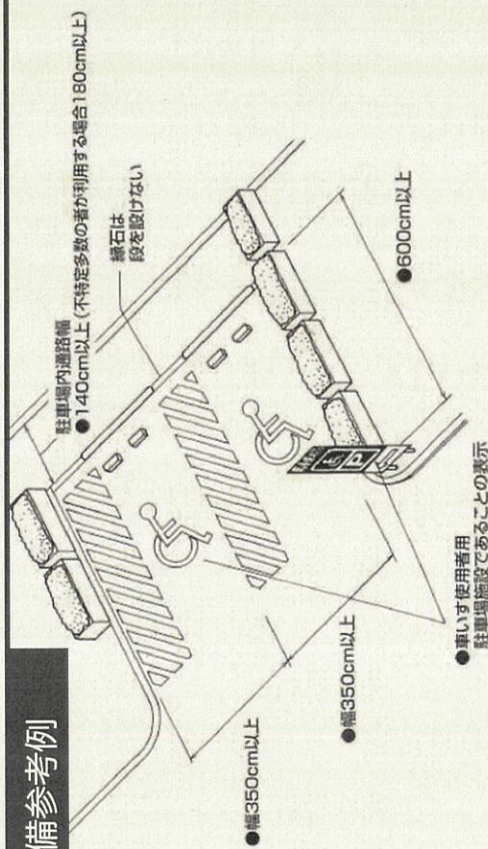
■車いす利用者用駐車場（1台）

本施設の駐車場は機械式の立体駐車場が既存で整備されており、収容台数は46台。整備基準では計画駐車台数の1/100以上とされており、本施設では車いす利用者用駐車場の駐車スペースを1台分以上設ける必要がある。

しかし、既存の立体駐車場の機器更新では、技術的に車いす利用者に対応することができないため、代替の車いす利用者用駐車場をサースペースに設置する計画とする。

車いす利用者用駐車場の整備基準で求められる、幅3.5m×奥行6.0m程度の駐車スペースを1台確保する計画とする。

整備参考例



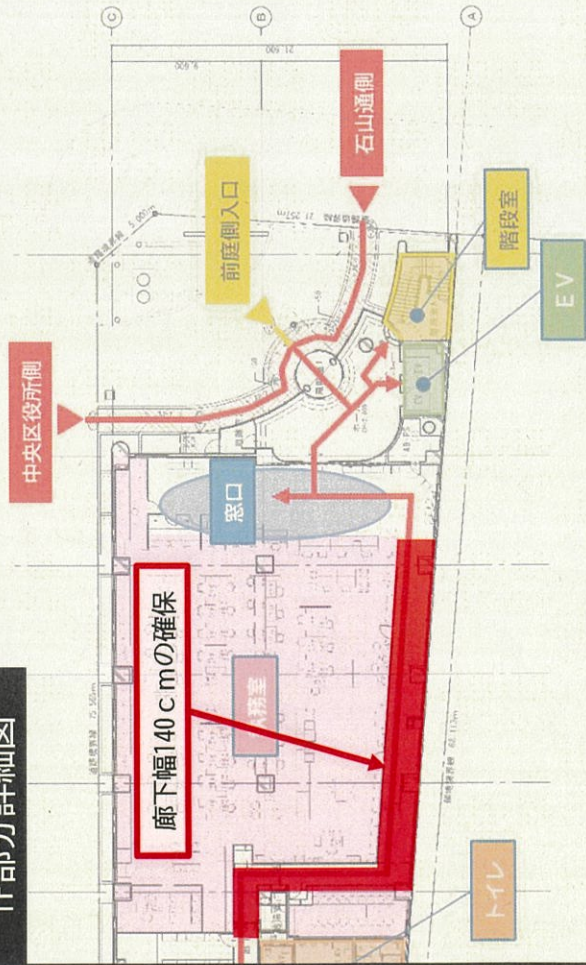
※上記記載内容は現時点でのものであり、今後変更になる可能性があります。

廊下

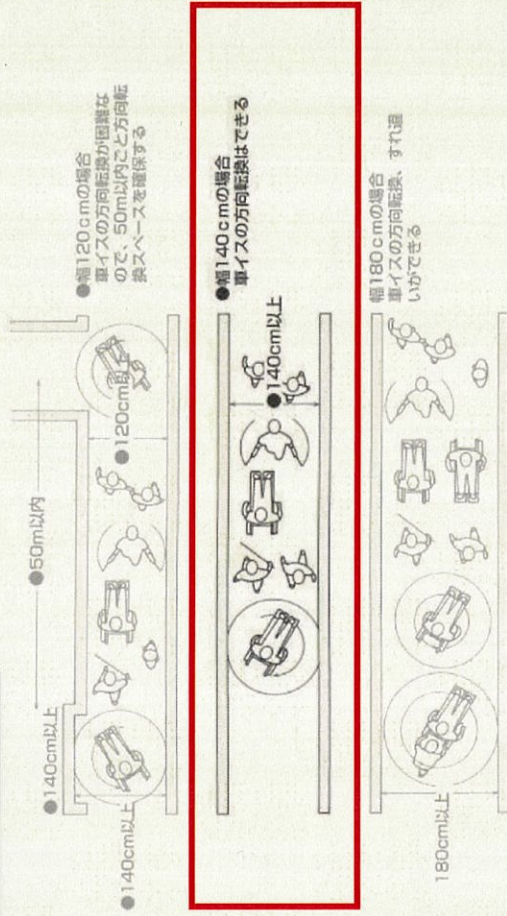
段差のない主要な来館者経路（）については、既存建物のスペースの制約上、望ましい整備基準を満たす幅180cmを全域にわたって確保することは難しいが、最低幅として140cmを確保した計画とし、車いすが方向転換できる寸法を確保する。

執務室内にはフリーアクセスフロア（0Aフロア）を設置する予定のため、床の高さに違いが生まれるが、執務室内側にスロープを設けて段差を解消すること、主要な経路上に段差・スロープが生じないような計画とする。

1F部分詳細図



整備参考例



誘導用ブロック

段差のない主要な来館者経路（）上に沿って設置する。

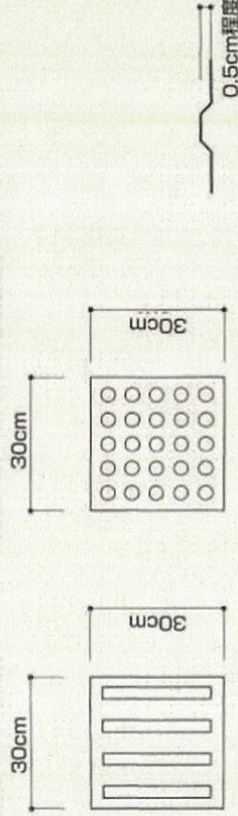
■ブロック設置箇所

- 階段の下端・下端に接する部分
- 自動ドアの前
- EVの押しボタンの前
- 道路から1F窓口までの経路

今回は改修工事であり、既に設置されている誘導用ブロックも多いため、現在の施設内状況を確認の上で、誘導用ブロック未設置の箇所について設置する。
使用する誘導用ブロックはJIS規格に定める形状とする。

■JIS (T 9251) による視覚障害者誘導用ブロックの形状

- 線状ブロック（誘導）
- 点状ブロック（警告・注意・喚起）



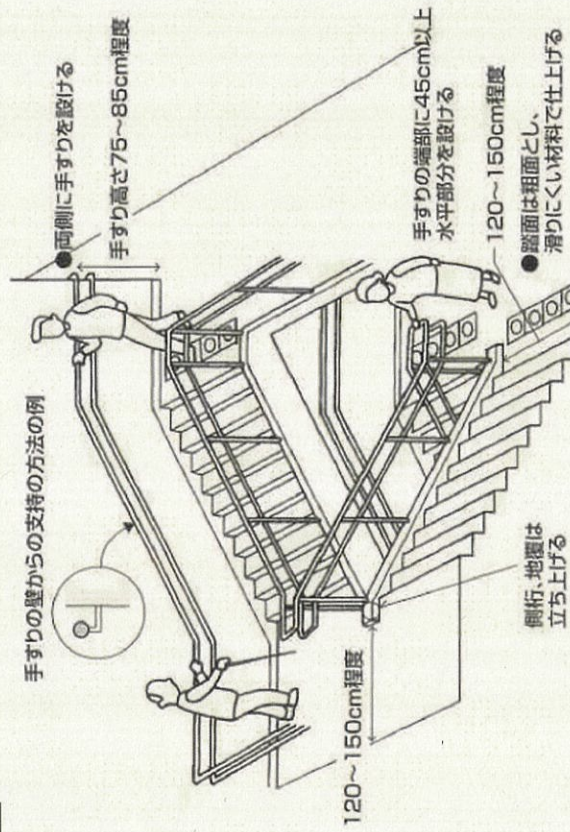
※上記記載内容は現時点でのものであり、今後変更になる可能性があります。

階段

建物内に2か所ある階段については、どちらも現状でおおむね階段の両側に手すりの設置や点字ブロックの設置がなされている。

ただし、建物内の調査の結果、踊り場に手すりの無い箇所や階段の登り口に点字ブロックが無い箇所がいくつかある事を確認しているため、それらの箇所の不備を補うように手すり・点字ブロックの設置を行う。

整備参考例

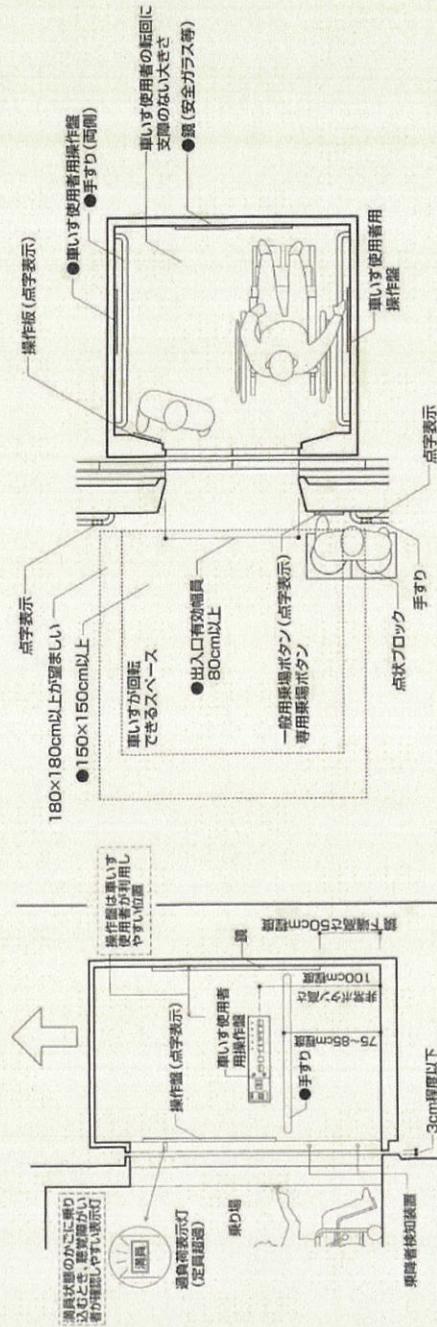


エレベーター

エレベーターの更新にあたり、かご内の設備や操作盤については整備基準に沿って改修を行う。

なお改修工事という性質上、建物の構造が既定されてしまっており寸法を大きくすることができず、かご内は奥行き150cm確保可能、幅は130cm程度、出入口幅は80cmとなる見込み。また、乗降ロビーについても同様に既存建物のレイアウトの関係上、フロアによっては望ましい設計基準に満たない可能性があるが、可能な限り有効スペースを取れるよう計画を行う。

整備参考例



※上記記載内容は現時点でのものであり、今後変更になる可能性があります。

一般トイレ

■大便秘器ブース

改修工事前の大便秘器ブースには一部和式便器が残っていたことから、原則洋式便器への更新を行う（点検用入通口があり、対応できないブース1か所あり）。また全ブースに手すりを設け、必要とする人がブースを選ばなくて済むようにする。

■小便器

高齢者・ケガ人への配慮として、各トイレにつき1か所には小便器用手すりを設ける。

■洗面器

高齢者・ケガ人への配慮として、各トイレにつき1か所には小便器用手すりを設ける。また、鏡は洗面器の上端から設置し、視線の高さによらず見えやすいよう配慮する。

多機能トイレ

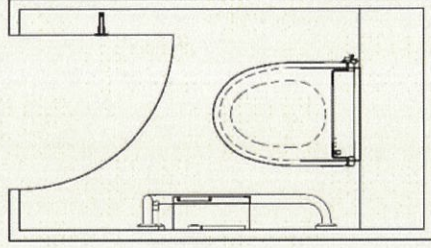
バリアフリー法に基づき、建物内1か所以上の設置が求められる多機能トイレは3・6階に設けるが、トイレ区画に配分できずスペースは既存建物の構造・形状により大きく制限を受けるため、各階で設置できる設備に差がある（各階のトイレ改修の検討図は次ページ以降に掲載）。

目標とする整備基準は右に示す図のとおりとし、3・6階以外の階層にもオストメイト用簡易型便房相当など、可能な範囲で多機能トイレに近づける整備となるよう検討を行い、機能分散を図る。

整備参考例

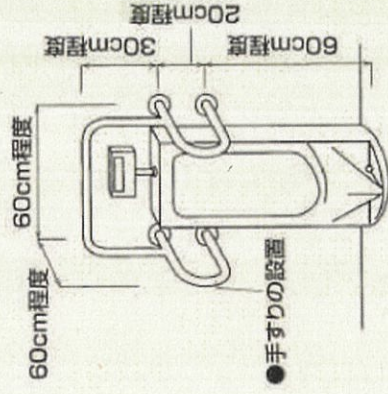
■大便秘器ブース

・便器の洋式化と手すりの設置を検討

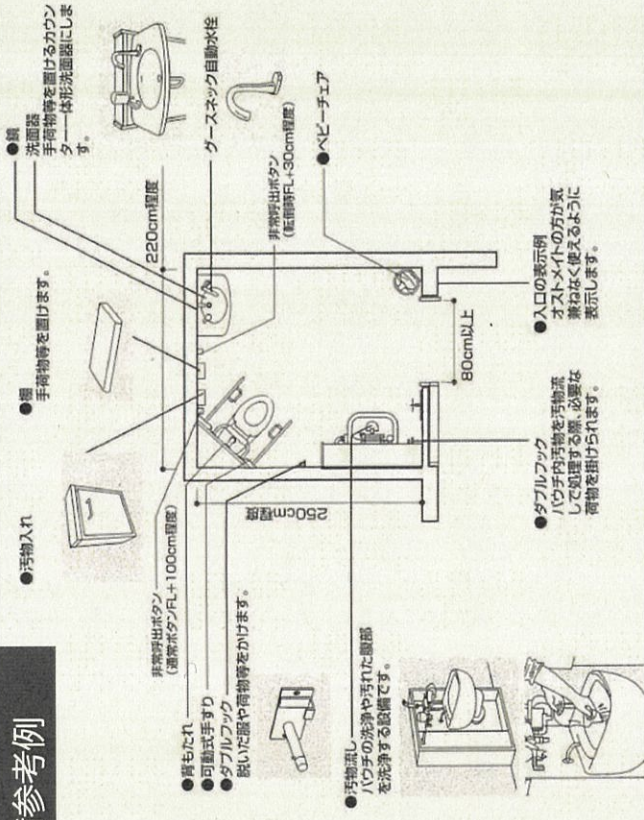


■小便器手すり

・各トイレにつき1か所設置

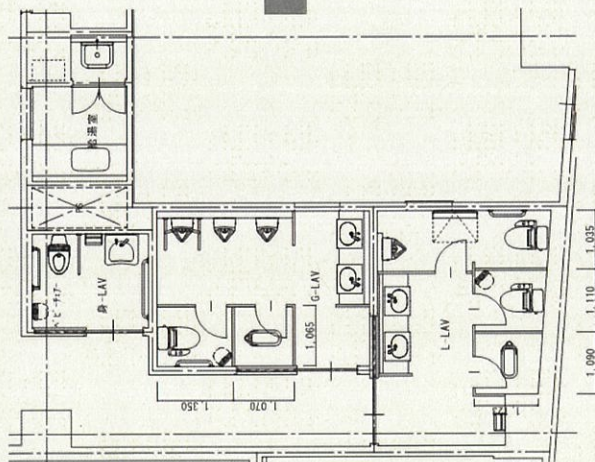


整備参考例

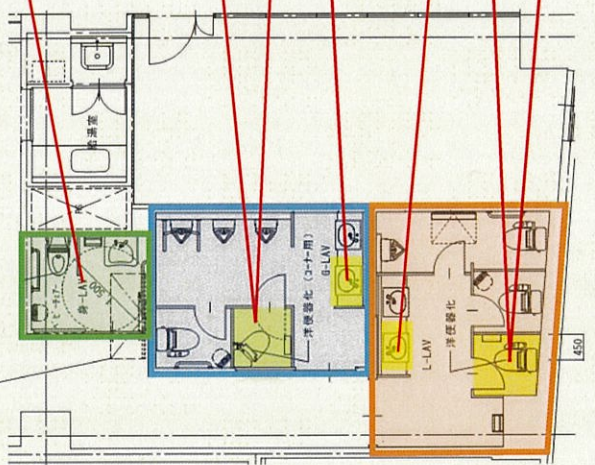


※上記記載内容は現時点でのものであり、今後変更になる可能性があります。

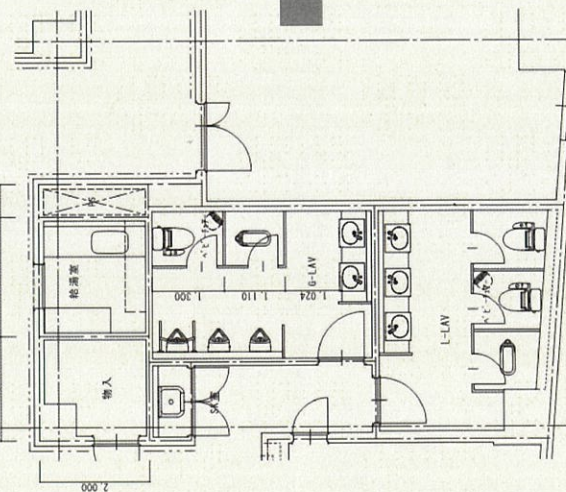
●改修前



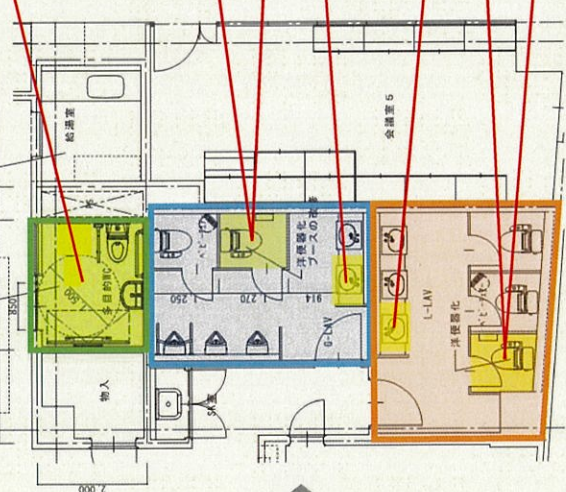
●改修後



●改修前



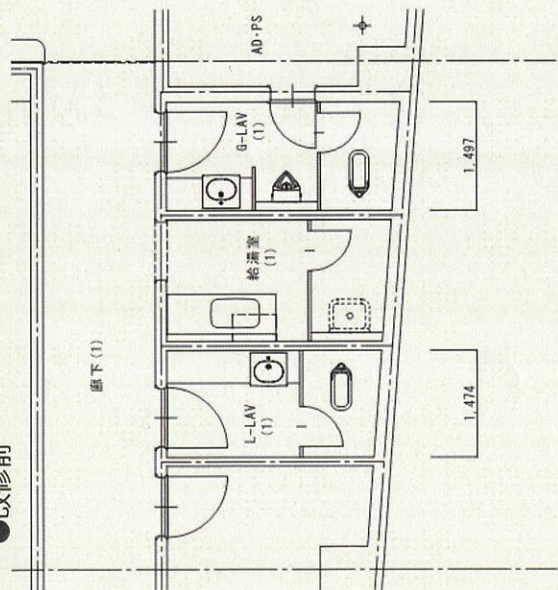
●改修後



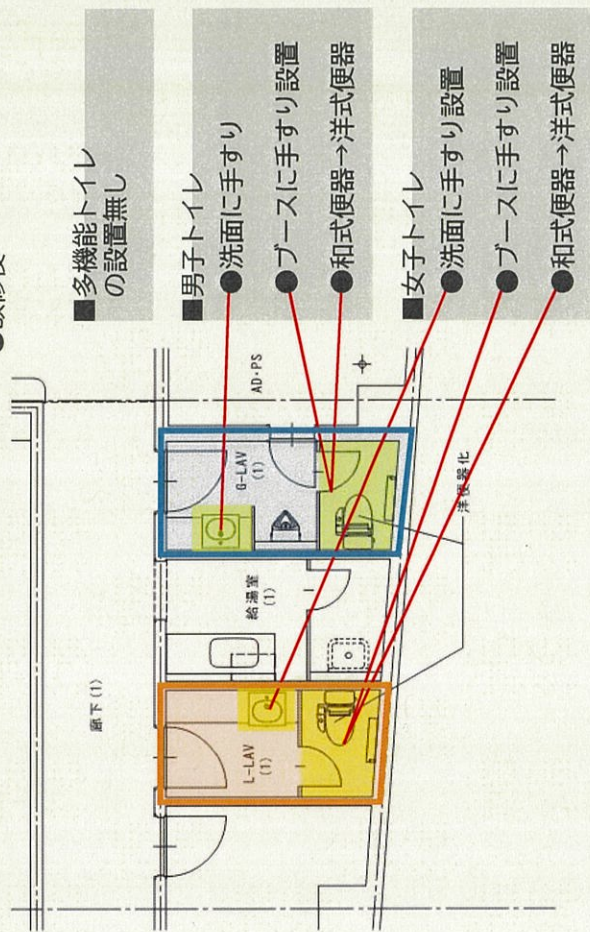
※上記記載内容は現時点でのものであり、今後変更になる可能性があります。

5Fトイレ

●改修前

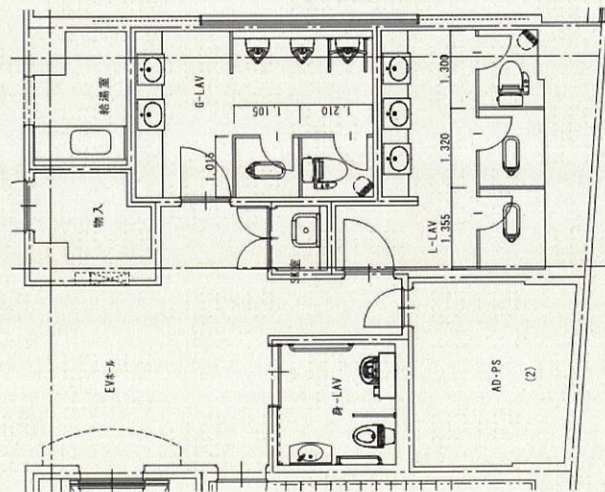


●改修後

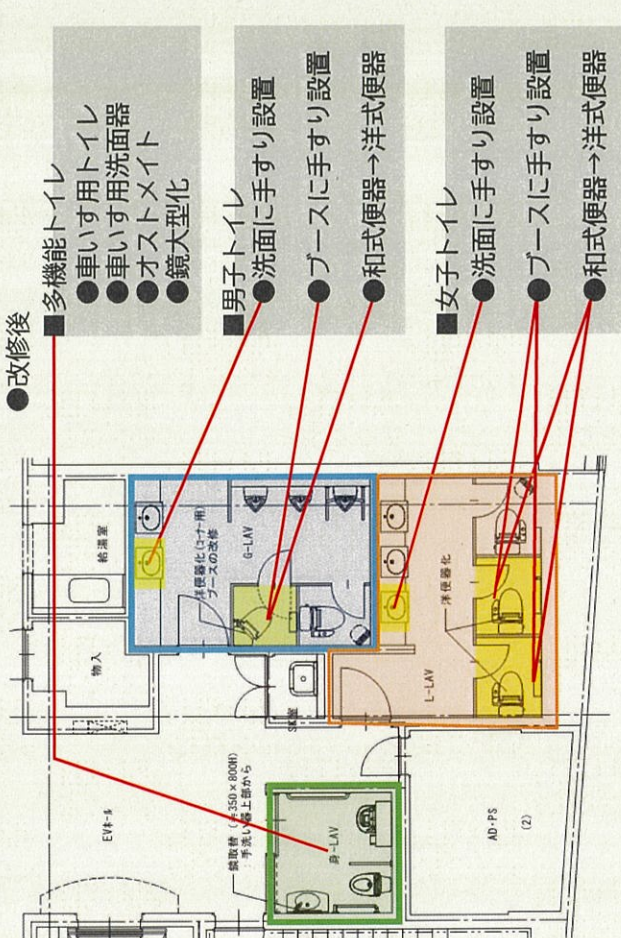


6Fトイレ

●改修前



●改修後



※上記記載内容は現時点でのものであり、今後変更になる可能性があります。